



永福学園通信

令和7年1月24日

第9号

東京都立永福学園
統括校長 緒方直彦



新年を迎えて



みなさまあけましておめでとうございます。令和7年新しい年を迎えました。本年もみなさまにとって良い年になりますようお祈り申し上げます。

年が明けて学校では授業が始まりました。就業技術科では1月8日に「書初め会」を行い、各学年各クラスから優秀作品を選出して掲示をしています。教室にも全員の作品が掲示されていて、どの作品にも力強い筆使いを感じることができ、心が改まる思いがします。

話は変わりますが、1月17日で阪神淡路大震災から30年を迎えました。私は震災当日、親族の結婚式のため金沢を訪れていたのですが、遠い金沢でもかなり揺れたことを覚えています。家屋の倒壊が多かったことや、地震があったのが朝食の時間帯だったため火事が多く起こってしまい、6000人を超える方々が犠牲になりました。この震災の後地震に対する備えは各方面で進められていますが、東日本大震災をはじめ各地で大きな地震が起こり、多くの被害が出ています。学校では毎月避難訓練を実施し、様々な災害の場면을想定して、在校中の児童、生徒の安全確保のための取り組みを行っています。しかし、災害はいつ起こるかわかりません。御家庭で過ごしている時や、登下校中に起こる場合もあります。御家庭でも災害への備えを整えるとともに、様々な状況を想定した対策をしておく必要があります。

これから3月にかけては1年間の学習のまとめを行う時期です。また、あわせて、新しい年への準備を進める時期でもあります。特に高等部3年生は、4月から始まる社会人としての生活に向けて準備を進める時期になります。進路先が決まっている生徒は生活習慣を整え、新しい生活にスムーズに移行できるようにしていく必要があります。まだ進路先の決まっていない生徒は実習や面接など進めていかななくてはなりません。慌てることなく、永福学園でこれまで身に付けてきた力を信じて、確実に自分のことをやってみましょう。

就業技術科担当副校長 山崎 裕之



社会貢献活動の取組紹介



本校では、「共生社会の実現に向け、障害のある幼児・児童・生徒の自立を目指し、一人一人の能力を最大限に伸ばし、社会に参加・貢献できる人間を育成する」ことを目標に、児童・生徒たちが地域と何らかのつながりを持ちながら、周囲の方々に良い影響を及ぼすことを含め、児童・生徒と共にできることを探究しています。人に喜んでもらった、役に立ったと感じることで、自己肯定感の向上につなげています。そこで、両部門の取組について、御紹介します。

【肢体不自由教育部門】

＜小学部＞

主任教諭：月洞浄江

ひまわり5・6年グループは、永福町商店街の生花店さんの協力のもと、「永福町フラワー大作戦」として社会貢献活動に取組ました。お店から、ストックと金魚草、ピオラ、パンジーの苗を贈呈していただきました。学校で水やりを行った後、永福町駅の花壇に運びました。オンラインで花壇と教室をつなぎ、教員が花壇の水やりしている様子を見ました。今後も苗の様子を見守っていきます。

＜中学部＞

教諭：平井洋子

世界の国々や日本について学んだことを生かして、社会貢献活動に取組ました。

「世界の国々」：イギリスについて学び、教職員、保護者を招いて音楽の演奏や遊び、アフタヌーンティーのおもてなしをしました。

「日本」：日本の遊びや書道に取組ました。書道作品をカレンダーに仕立てて他学部など校内に配りました。

＜高等部＞

主任教諭：小楠友子

1年生は、主事さんと相談して校内清掃やスリッパ拭き、各教室の消毒用アルコールの補充など行いました。

2年生は、自分たちの絵を永福町商店街の3か所に掲示し、商店街を利用する人々を笑顔にするための取組を行いました。

3年生は、永福南社会福祉ガーデンの利用者の方々とポッチャ交流会を行いました。学部全体で、1月24日(金)に各学年の取組の発表会を実施しました。

【就業技術科】

主幹教諭：秋谷 昌義

本校就業技術科の特色である職業に関する専門教科の授業において、知識や技術の学習を行っています。そして、社会の一員としての自覚をもち、地域社会に貢献しようとする意欲や態度を、社会貢献活動をとおして育てることを目指しています。

就業技術科の社会貢献活動の取組について御紹介します。

＜ビルクリーニングコース＞近隣施設である永福体育館・都立中央ろう学校・明治大学キャンパスの清掃（ガラス清掃、カフェ清掃、ベンチ清掃など）

＜食品コース＞明治大学キャンパス内にて、授業で作った食品（パン、ケーキなど）の販売

＜福祉コース＞保育園からの装飾品制作などの委託業務や、近隣の高齢者施設での交流

＜ロジスティクスコース＞近隣企業からの委託業務

＜事務コース＞近隣企業からの委託業務や、食品コースの販売用ポスターの作成

＜学級委員会＞不用品回収、売却による売上金の募金

最初は慣れずに声が小さく、動きが固かった生徒たちも、相手（御客様）の喜んでくださる反応に、「誰かのために」活動する楽しみが広がっています。

「誰かに喜んでいただけること、必要とされること、また、そのことを嬉しいと思うこと」これこそが卒業後の生活に必要で、大切にしてほしいことです。

就業技術科は今日も学びます。「誰かのために」そして、「自分のために」。

東京都立永福学園

副校長 山崎 裕之 安田 泉 松本 忍
主幹教諭 池田 佳信 池田 奈央子

〒168-0064

東京都杉並区永福1丁目7番28号

電話 03-3323-1380

<https://www.eifuku-sh.metro.ed.jp/>